

社会人のための情報システム誌  
— 経営近代化のシステム研究 —

# Computer Report

1

2019 No.772

## 3 はじめの言葉

## 4 根源的な課題に

### 挑み続けるシステム現場

田原文夫

AI だ、IT だ、ビッグデータだと、時々注目されるコンピュータテクノロジーワードが登場してくる。いつもながら、こうした流行り言葉は、ユーザー側から出てくるのではなく、業者側すなわちユーザーに何かしらの提供する側からのアプローチから発せられている。時代が進もうが、テクノロジー上の進展があろうが、基本的フレームは変わっていない。目先の目新しさはあるように思えても、実際は根源的にはほとんど大きな進展はない。言葉自体も、決して新しいものでも何でもなし。時代の移り変わりの中で、ユーザー側の世代交代がある分、目くらましを受けたように目先の新しさに驚き、戸惑っているようだ。しかし、その根源にある情報処理の原理原則は変わっていない。人々は、相変わらずの間違戸惑いを繰り返しているようだ。

## 10 情報社会を考える その 100

### 情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

### すでに軍事態勢

国家間交渉ができない隣国政府による挑発行為もついに来るところまできた感がある。日本の排他的経済水域の海上において、自衛隊の哨戒機に対して韓国の巡洋艦から攻撃用のレーダービームを照射してきた。これに対しての韓国の反応ぶりが凄い。事実を全面否定、哨戒機からの「どういふつもりか」の無線通信に対しても「電波が微弱で通信内容が確認できなかった」という回答だった。この種の軍事的挑発行為は、文字通り、宣戦布告行為である。戦闘行為の報復をもって対応されても文句は言えない行為であることは言うまでもない。我が国の哨戒機が実戦配備体制にないことを見通してのことでもあろう。

## 12 デジタルガバメント DG12

### デジタル政府の展開 その 12

水田 浩

デジタル化は人々の生活の質を向上させる。2018 年 1 月 16 日に日本政府もデジタルガバメント実行計画を e ガバメント閣僚会議で決定した。この計画は、28 年 1 月 16 日から 2023 年 3 月 31 日までの計画である。2018 年上半期を目途に各府省庁における中長期の戦略的な計画を策定をする。電子政府は ICT を使って政府側から国民に行政サービスをより早く、より安く、より良くするのが目的だがデジタルガバメントは顧客（国民、企業、職員）側から政府の行政サービスを探し易く、繋がりやすく、何時でも何処からでも誰でも使えることを目的としている。

## 1 8 連載 アーキテクチャ論 (93)

### EDPBoK

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 大学院 情報学研究科 教授

本稿では、デジタル変革(DX)についての知識体系としてオーブングループがまとめたDPBoK (Digital Practitioner Body of Knowledge)[1]を説明する。まず、DPBoKの開発方針について説明する[2]。次いで、DPBoKの主題の概要[3]を紹介する。さらにDPBoKの構成を整理する。

## 2 6 連載 情報システム考

### 企業情報システムの変遷と行方 第16回

Dr.ベスト

昨今、クラウド、ビッグデータ、AIなどをベースとした情報システムが社会的規模で普及する中、それらのシステムを各企業規模すなわち自社(社員)レベルでコントロールできない状況へと進展している。換言すれば、「情報システムのコントロール不可、すなわちアウトソーシング依存現象」である。企業にとって情報システムは、企業の神経/血液そのものであり、コンサルタントや弁護士に限定された範囲での業務を委託したり、物流や警備をアウトソーシングするような対象のものではないはずである。

## 3 2 IT新時代とパラダイム・シフト

### 第110回 新たな段階に達した総監視社会

根本忠明

昨年暮れ、東名あおり事件や渋谷ハロウィーン事件での逮捕で、DF(デジタルフォレンジック)として、個人所有のスマホやドラレコが注目された。これは、いつでもどこでも相互に監視される時代の幕開けを象徴している。これは世界的な流れといってよい。新たな総監視時代における法制度、警察のDF体制、誤認逮捕などが問われている。

## 3 5 続インテリジェンスへのいざない 107

### 情報銀行の活用でGAFAに対抗できるか

今井 武

#### GAFAの最新評価

4半世紀も前になるが、情報管理協会が東洋経済新報社と共同で行った黎明期の東証一部上場企業を対象としたデータベースの調査では顧客データベースの不備を指摘したものだった。その中で顧客データを利用した傑出した企業の情報システム展開を「SIS:戦略的情報システム」と名付けた覚えがある。それが、この数年の米国経済を引っ張ってきたのはグーグル、アップル、フェイスブック、アマゾンを示す「GAFA(ガファー)」の顧客データベース活用で、あたかもSISそのものである。しかし最近では、このGAFAに批判と締め付けが始まっている。無料のネットサービ等を使い、独自に膨大なデータを収集し、ビッグデータ/AI等の手法を駆使して使い勝手を改善しながら、消費者が他に乗り換えられなくすることで競争優位を確立しているといわれる。

## 連載 新語録(ごろく) 30シリーズ

すぎやまちヒロ

(筆者の都合で今月は休載します)

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

## CR選書

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,800円＋税 送料(〒300)  
A5版 289頁

石井 義興 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 EHCが必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータウェアハウスサポート
第二章 データベースとデータウェアハウスの相違点	第八章 データウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータウェアハウス	第九章 データウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル	第十章 データウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正則化の問題点とデータウェアハウス	
第六章 データウェアハウス管理システム	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**実践データ・ウェアハウス**  
**OLAP**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A5版 249頁

豊島 一政・木村 哲 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEHCにできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 CodePlusによるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析集積の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 381頁

田原文夫 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動ピクチャー
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動ピクチャー)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

aism 研究活動報告  
**インターネットセキュリティの**  
**落とし穴**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修  
aism情報セキュリティ・マテリアル研究会 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM KLEZの蔓延と国家記録
第二章 aism情報セキュリティ研究会の発足	第十二章 メールが騙かGLI
第三章 認知される電子署名方式の基本知識	第十三章 仮想ネットワークのための情報オーナーの構築
第四章 業界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 第五のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 1万バグの常識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 WWW(インターネット)の脅威	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2002年度の事業活動	第十八章 ネット・セキュリティ作戦にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の脅威と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の**  
**情報システム革新**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 271頁

高田 顯重 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム監査	第八章 変革対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**計量モデルの構造と解法**  
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 2,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 212頁

安田 聖 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分割方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 分散式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計算方法	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

**『いざ！というときの得広報』**  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,400円＋税 送料(〒300)  
A5版 280頁

加藤 洋一 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広域ビジネスの経営条件	■ 売玉も企業体質
■ ニュースリリースは東方向優先	■ 守るも決めるも広報が窓口
■ 文字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のタイミング	＜付＞記事とうまく付き合う十六の鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国際グローバルサーバー  
—IBM社会に挑んだ国際情報システム作りの物語—

定価 本体 1,800円＋税 送料(〒300)  
A5版 269頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 発端	第十一章 日本国子法の選い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米国チーム編組の依頼
第三章 新しシステムへの働き	第十三章 新上任職者
第四章 WDCに向けて	第十四章 米国チーム編組と新たな編み
第五章 F&C、IBM競争	第十五章 国際チーム編組とリンクアップ
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本国子法編組と本業継続日程
第八章 米国チーム立ち上げの遅れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 探訪その一 直前、直前の苦しみ
第十章 米国チーム、勝たぬ三人組	第二十章 探訪その二 安定稼働と北米センター稼働

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)